

コロナ感染症に伴う介護・看護の 事業者や職員への影響調査報告（概要版）

神奈川県議会議員 くさか景子 2021年7月

★調査結果の全体や詳しい分析、政策提言などは「詳細版」に掲載します。

〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北2-1-57 1階 TEL/FAX：0467-58-0290 future@grace.ocn.ne.jp

新型コロナ感染拡大が始まり、1年以上が経過しました。くさか景子は、福祉の現場で発生した問題や、現場がどのように対応したかを県政に反映するため、事業者や職員の皆様にアンケート調査を実施しました。



調査は、5団体が経営する18事業所(高齢者、障がい児者、難病等を対象とした、特養、グループホーム、通所、訪問看護・介護、相談支援、ケアマネ等)と、その職員を対象に、2021年4～5月に実施しました。結果、18事業所、職員185名の方々からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました！

【職員への質問から】 コロナ感染拡大により、仕事上での悩み不安はありますか？

	ある	多少ある	ない
利用者の方への感染やその防止対応	76.2%	15.7%	8.1%
自分自身への感染やその防止対応	76.2%	17.3%	6.5%
自分の家族への感染やその防止対応	73.0%	18.4%	8.6%
仕事を続けることができるかどうかへの不安	25.1%	34.4%	40.4%
感染防止対策による業務量が増えることへの不満	28.3%	25.5%	46.2%



利用者や自分自身、家族への感染に不安を感じる方は4人に3人(3/4)に達し、「多少ある」も含めると9割を超えます。仕事を続けられるかどうかへの不安も、4人に1人が「ある」と回答。感染防止対策による業務量増加への不満も、3割近い方が「ある」としています。

【職員への質問から】 コロナ感染拡大により、家族との対応で悩み不安はありますか？

	ある	多少ある	ない
自分から家族に感染が広がる可能性への不安	64.3%	21.6%	14.1%
家族から自分に感染する可能性への不安	63.2%	20.0%	16.8%
介護・看護の仕事をするための家族の理解	27.5%	18.1%	54.4%
感染防止のために自分や家族の行動が制限されることへの悩み	31.4%	34.6%	34.1%

自分から家族へ、家族から自分へと感染する可能性への不安は「ある」を含めると8割を超えます。

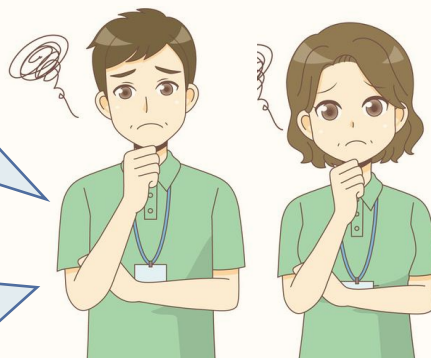
また、仕事を続けることへの家族の理解に不安を感じる方も3割近くに達しており、「多少ある」を含めると5割近くです。

感染防止のために自分や家族の行動が制限されることへの悩みも、3割以上の方が「ある」と回答しています。



【事業者への質問】 コロナ感染症の拡大により、貴団体・事業所で、どのような問題が発生しましたか。また、その問題にどのようにご対応しましたか。（自由記述）

(感染防止のため)サービスの利用や通所を控える方がおり、収支に影響した。



密を避けるため、時差出勤や出勤人数の調整を行った。

利用者に感染者が出て、対応していた職員が濃厚接触者になり、現場が回らなくなった。

マスクを着用できない利用者がいて、利用者同士がもめた。

(消毒用の)アルコールが入手困難、価格高騰。消耗品が高騰して経費が増えた。

感染防止のための使い捨てエフロンが品薄で、購入が難しい時期があった。

調査結果を受け、今後の課題と方向性について

今回の調査から、介護・看護の現場での厳しい状況が浮き彫りになりました。

コロナの影響で多数の失業者が出ているにも関わらず、「きつい現場の職員確保が相変わらず難しい」「医療ばかりが注目される中、陽性患者が出ても入院が難しく、施設で介護し続けるしかないが支援がない」などの声も寄せられ、介護等職員の処遇の改善が根本的な問題であることも明確になりました。

県として現場の声をしっかり受け止め、実効性のある政策を実行できるよう提言していく必要があります。

